

平成 28 年度埼玉県オハイオ州スカラシップ 機械工学インターンシップコース 最終レポート

いよいよ最後のレポートになってしまいました。4月27日に最後のインターンシップを終え、5月2日には最後の期末試験が終わり、3日にお世話になった先生方や友達に別れの挨拶を行い、4日にフィンドレーを発ちました。その後はアメリカの先住民が暮らす地を訪れたり、今まで生活を共にしてきた原田さんとアメリカ横断に挑戦したりなど、この機会では出来なかったことを行い、5月18日に無事帰国しました。

今回の最終レポートでは、留學生活の振り返りたいと思います。

ニッシンブレキ・オハイオでの学び

ニッシンブレキ・オハイオでのインターンシップから学べたこと・経験できたことは多くあり、エンジニアとして海外で活躍したいという気持ちが一層強くなりました。埼玉県・オハイオ州スカラシップのうち、機械工学インターンシップコースだからこそ学べた大きなことは「働き方の違いを知り、アメリカ文化に適応して働く能力を養えたこと」だと思います。

働いていると日本とアメリカとは考え方やコミュニケーションに違いがあると感じました。フィンドレー大学日本語学科の教授であり、大変お世話になった川村先生からは「日本でのやり方や考え方を他の国で押しつけるのもいけないし、アメリカの合理的な考え方やフランクなコミュニケーションに感銘を受けたからといってそれを日本で実践しようとするとう日本の文化に即さない部分も多く出てくる。だから、それぞれの国のやり方や、考え方に適応したコミュニケーションを柔軟に使いこなすことが大切だ。」とよく言われました。

留學生活では、この違いについて日頃から考えさせられ、言語の習得だけでなく文化や考え方の違いを考慮したコミュニケーションというものを実生活の中で学ぶことができたと思います。特にインターンシップでは考え方の違いなどによる働き方の違いを多く観察することができました。

例えば、新しいことに積極的に取り組む姿勢です。日本では、もっといろんな計画を立てて実行しそうな場面でも、アメリカでは早く決定を出し、実際に進めていく段階で臨機応変に対応していると感じました。プロジェクトや加工工程のプログラミングをする際に、試しながら作業を進めるのが印象的でした。

また、自分がラインで働いている時に感じたことは、変に責任感を持たないということです。自分がラインで作業をしている時、ラインリーダーからは5台のマシンを担当するように言われたのですが、自分の仕事が終わり、手が空いたため、他の人が任されている作業を手伝ったところ、本来の担当の人が、誰が担当者なのか困惑してしまったりしく、ラインリーダーから指示された作業をするように注意を受けました。日本では、指示以外のことも、責任感からやることはあると思います。これは日本ならではの文化だったと気づかされました。アメリカでは、自分に任された仕事を果たすが、変に責任感で「あれをやらなくては」というような考え方がないのだと学びました。

ほかにも、アメリカのエンジニアはみんな頭がいいだけでなく、力持ちだなと感じました。自分と原田くんが2人がかりでやっと運んだりするものを1人で持ち上げる姿には驚きました。

一緒に作業をすることが多かった現地エンジニアのリンダには常に笑顔を作ることを教わりました。自分も含め、疲れている時などはどうしても表情に出てしまいます。しかしニッシンブレキ・オハイオで働いている方は、みんないい表情で働いています。最初は仕事を楽しんでいるからだと思っていたのですが、実際仕事に参加すると大変な時はとても大変ですし、1日働いていると終盤ではものすごく疲れを感じます。自分は疲れた時は表情に出るようでリンダからは「Kei! Smile!」と言われることもよくありました。アメリカ人がフランクに見えるのは、根が陽気というだけでなく常に表情を意識して笑顔でいることを習慣として持っているのだと思いました。おかげで自分も表情を意識するようになりました。



ニッシンで最初に撮った集合写真

アメリカ大統領選挙

留学中に大統領選挙がありました。アメリカの大事なイベントに立ち会い、現大統領トランプ氏対クリントン氏による白熱した戦いを直に感じる事ができたことは本当に運がいいと思いました。両者の支援者が自宅の前に応援看板を掲げる光景をみました。両候補者に対し、多くの意見を聞きましたが、これからの変化を期待してトランプ氏を支援するという意見も聞きました。開票当日は自宅のテレビや、大学内の共同スペースにあるテレビで多くの学生が投票結果を見ていました。どっちが大統領になるか予想できないほど接戦でしたがトランプ氏が大統領になりました。

大統領選を見て、学生が選挙について意見を持ち、討論をし、将来について考えている姿が印象に残りました。日本でも、より多くの若者が政治に興味を持ち、将来について考えることが必要だと感じました。



テレビの選挙報道

卒業研究の実験

この留学中に個人的に成しげたいと思っていたことの1つが、アメリカで卒業研究の実験を行うことでした。2月のレポートでこの実験を始めたこととお伝えしたのですが、その後4月までにアメリカ人の学生16人を対象に、実験データを取得することができました。1回あたり試行時間が約20分と時間がかかりますし、今まで本格的な対人実験を行った経験もなかったので始める前は不安がありましたが、快く協力してくれました。アメリカに来たのだからやってみたいという理由で始めることにしたのですが、無事にデータを収集できてよかったです。

帰国前に

5月2日の期末試験終了後、フィンドレー大学で出会った友達とニューメキシコに訪問し、ネイティブアメリカン・プエブロ部族の集落などを巡りました。この留学中に、アーミッシュという電気や車、通信機器などの現代技術を一切使わず自給自足で生活を行う宗教を信仰する人達の住む村を訪問したので、ニューメキシコでアメリカの広大な自然や歴史に触れた旅となり、留学の最後にふさわしい旅でした。

本来これで帰国する予定だったのですが、一緒に生活を共にしてきた原田くんからある提案を受けました。それはロサンゼルスからフィンドレーまで車でアメリカを横断することです。とても悩んだのですが原田くんの勢いに押され、行くことにしました。旅の途中では新しい友達ができたり、今まで行ったことのない州に訪れることもできました。この提案をしてくれた信太郎くん、そしてその間の社用車の使用を許可してくれたニッシンブレキにはとても感謝をしていますアメリカ生活最後の思い出がこんな大冒険になるとは想像していませんでした。



ニューメキシコのネイティブアメリカンの集落